

2022年11月19日 横浜発 → 11月22日 横浜着 4日間



11 | 21 3日目 14:15~ 能公演【橋弁慶】 【船弁慶】

(高知県立美術館・能楽堂) 宝生流第二十代宗家・宝生和英が舞う能公演



宝生 和英
【宝生流能楽師】

第19世宗家宝生英照、佐野萌、今井泰男、三川泉の薫陶を受ける。2008年に宝生流第20世宗家を継承。第40回松尾芸能賞新人賞受賞。



野月 聡
【宝生流能楽師】

1988年入門。18代宗家宝生英雄、19代宗家宝生英照に師事。Eテレ「古典芸能への招待」や日光東照宮400年式大祭能などで公演。

武蔵坊弁慶は、北野神社へ丑の刻詣（ときもうで）に出ようと従者に共を命じますが、従者は神社への通り道の五条の橋に、最近十二、三ばかりの小男がいて、通行人に悪さをすると言ったので止めた方がいいと言って引き留めます。しかし弁慶は、それならばかえって退治してくれようと薙刀（なぎなた）をかついで五条の橋へ出向き、その少年との打合いに臨みます。さすがの弁慶もこの小男が牛若丸とは知らず、散々に翻弄され、降参して家来なることを誓います。義経と弁慶、二人の運命的な出会いを描きます。

能「橋弁慶」

◆ あらすじ

頼朝と不和の義経は都を出て船に乗る為尼崎に向います。弁慶はここまで伴って来た義経の愛妾静御前を都に還すよう義経を説得し、静は烏帽子を着け、本来の白拍子となって出舟を寿ぐ舞を舞い、泣く泣く別れて行きます。一行が海上に出ると、初めは穏やかだった海が俄に荒れ、平知盛の亡霊が現れ義経に襲いかかります。

能「船弁慶」


◆ あらすじ

にっぽん丸 伝統芸能お能クルーズ



NIPPON MARU

2022年11月19日 横浜発 → 11月22日 横浜着 4日間

11 | 19
1日目 能楽師による能面・能装束の紹介 **能楽の美の世界**

11 | 20
2日目  **落語 笑福亭 羽光** 1972年生まれ。2007年4月 笑福亭鶴光に入門。
2011年5月 前座から二ツ目へ昇進。

11 | 21
3日目 邦楽ライブ 三浦 可栄(箏)、磯貝 真紀(箏)、滝本 ひろ子(笛)

11 | 22
4日目   宝生流第二十代宗家
宝生和英トークライブ & 狂言ライブ
山本 則秀 山本 則重



夕食は全て和食でご提供、
にっぽん丸初の試みです。

本クルーズのテーマディナーは目でも楽しめるお能ディナーです。
アフタヌーンティーではにっぽん丸パティシエがおススメするご当地和菓子
もご用意しました。



H I G A S H I Y A



水巻子司
福岡水巻

HIGASHIYA がにっぽん丸の
ために考案した和菓子をご提供します。

11 | 19

百合羊羹 (ゆりようかん) 11 | 20

百合根は漢方では“ヒャクゴウ”と言われて精神の安定や疲労回復の効果があるとされています。
この百合羊羹は福留菊水堂の歴史でもあり、世界的植物学者・牧野富太郎博士にも絶賛されました。



山桃羊羹 (やまももようかん) 11 | 21

南国土佐・高知の県花として親しまれている“やまもも”。
その果実は甘酸っぱく独特の風味と香りがあります。しかし
その風味と香りを菓子に表現するのは非常に難しいものでしたが、この山桃羊羹はそれを見事に表現しています。

